



### 組紐に最適な糸の生産にも携わる

龍工房は、絹糸を編んで作った「組紐」を使い、女性が和服を着こなす上で欠かせない「帯締め」や「帯揚げ」などを製作する企業。着物専門誌をはじめとするメディアでしばしば取り上げられており、和服好きの間ではファンが多い。また、昨年大ヒットしたアニメ映画『君の名は。』に登場した組紐をプロデュースしたことで、広く知られている。

龍工房の前身となった工房が設立されたのは、明治20年代のこと。当時に比べ、和服を着る日本人は少なくなった。それに伴って組紐を扱う問屋の数も減ったと、龍工房の代表取締役で東京都伝統工芸士でもある福田隆氏は語る。

「当工房は、老舗百貨店と長らくお付き合いをいただいています。以前は複数の問屋と取引をされていましたが、今は専業の私たちが活かされていますね」(福田氏)

競合たちが消え去る中で龍工房が専業として事業を

継続してきた理由は2つある。1つ目は、「強いこだわり」。よりよい組紐を生み出すために、デザインや製作技術はもちろん、材料である絹糸にまでこだわっているのだ。

「和服や組紐の原料である絹糸は、今や99%が中国などの外国から輸入されています。もちろん、その中には品質の優れたものもありますが、私どもは『ものづくりを極めるためには、組み紐に一番合った糸を作らなければダメ』だと考えたのです。そこで20年ほど前から、群馬県の養蚕農家さんと提携して純国産絹糸の生産を手がけるようになりました。専業ならではのこだわりです」(福田氏)

### ワクワクするため新分野に挑戦

2つ目の理由は、新たな分野に挑み続ける姿勢だ。例えば、昨年行われたリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、ブラジルで開かれた関連イベントに深く関わった。

「現代美術家の日比野克彦さんが監修し、教え子の

五十嵐靖晃さんが中心となって行った組紐パフォーマンスで、巨大な台を使って組紐を作る仕組みを提供しました。さまざまな国籍の来場者たちが参加し、1つの大きな組み紐を作り上げていく様はとても感動的でした。

東京都市大学教授でデザイナーでもある川口英俊さんとコラボレーションして作り上げた『kulis〜くみひもうるしペン〜』も、新たな分野への挑戦だと思えます。この商品では、中を空洞にしたまま組む手法を採用し、ペンのリフィルを交換できる構造にしました。技術的には非常に高度だったのですが、だからこそ、私の息子である隆太を初めとする若い職人たちは、一丸となって燃えていましたね」(福田氏)

長い歴史を背負った伝統工芸の世界。しかし、古い技術に安住しては進歩できないと福田氏は強調する。

「私どもは、日本でも有数の技術を持った集団だと思っています。でも、それを十分に発揮するためには、『ワクワクする気持ち』が必要不可欠。新しいこと、世界につながる舞台に挑み続けることが、仕事への情熱につながります。そしてそれは、お客さまに喜んでいただくモチベーションの原動力にもなるのです」(福田氏)

## 次世代へのバトンタッチを模索

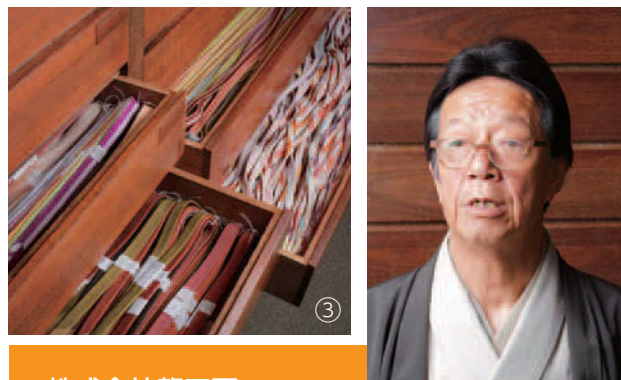
福田氏は今年57歳。現在は、隆太氏や甥の林茂樹氏といった次世代へのバトンタッチを模索中だ。

「私どもの仕事は、決して一人ではできません。養蚕農家や製糸工場の皆さん、職人たちが連携することで、ようやく組紐という商品が完成します。言わば、全員が運命共同体なのです。息子や甥には、そうした集団の旗頭になれるよう育ててもらいたいですね」(福田氏)

そのためには、技術力やデザイン力以外も伝承していきたいと、福田氏は考えている。

「まず大切なのは、『粋』と『野暮』を見分ける力。これは、江戸文化の継承者である私どもにとって、絶対に欠かせない条件です。また、自力で考えさせる機会をできるだけ多く設けることも心がけています。若い人たちに、一流の人と出会ったり新たな経験を積める場を用意したりすることで、成長を促していきたいですね。

もちろん、ものづくりにこだわる姿勢も伝えていくつもりです。お客さまに喜んでいただくため、心を込めてよいものを作る。その姿勢があれば、さらに次の世代へとバトンをつなげるのではないのでしょうか」(福田氏)



①「丸台」と呼ばれる台を使って糸を組み上げる様子  
②同社が手がけるプレスレット(手前)とくみひもうるしペン(奥)  
③熟練の技によって生み出された帯締めは非常に美しい  
(2ページの写真) 福田氏(右)が息子の隆太氏(中)と甥の林茂樹氏を見守る眼差しは、厳しさの中に優しさが宿っている

### 職員から～取材を終えて～

龍工房が作る「組紐」は、デザイン、染色指定、用途に適した組み、すべてをプロデュース可能であり、現在様々な組紐の製作依頼があります。「野の花を摘むがごとく、一本一本大事に作る。摘み草をするように季節の色を選び、控えめでも存在感のあるものを作りたい」と福田社長。今後も、伝統工芸の技術や職人としてのこだわりは維持しながら、新商品に挑み、時代の変化に合わせた新商品を期待しています。(城東支社 渡邊浩二)

### 株式会社龍工房

(会社概要)  
代表者：代表取締役 福田 隆  
資本金：1000万円  
従業員：9名(2017年6月現在)  
所在地：中央区日本橋富沢町4-11  
TEL：03-3664-2031 FAX：03-3661-6050  
URL：<http://ryukobo.jp/>